

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 15 日

所属	商経学部	職名	教授	氏 名	沖塩 有希子
研究課題	中等社会科系教科教育に関する研究				
研究キーワード	中等社会科系教科・教科教育・教員養成	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

上記の研究については 2023 年度より開始したところであり、(「2023 年度 個人研究実施計画書」【研究目的及び概要】にも記載したように、) 中等社会科系の教科教育分野の教員養成に携わっている自らの立場性に留意し、関連する担当授業に基づく形で研究の方向性を探った。並行して、研究を進めていくに際して前提となる作業：先行する研究動向の把握、担当する当該教科教育講義の受講者の状況の把握 を進めた。

前者の作業（先行する研究動向の把握）から、研究を進めるにあたって、スティーブン・J・ソーントンが提唱する「教師のゲートキーピング」にリンクさせながら考察を加えていくという方向性が見えてきた。後者の作業（担当する当該教科教育の講義の受講者の実態把握）からは、受講者のほとんどが高等学校公民科分野に 2022 年に設置された「公共」の科目を将来的に指導しなければならない可能性があることに不安を感じていること、その理由としては、受講生は同科目の学習経験を持たないがゆえに、イメージが皆無の状況で学習指導計画を作成し模擬授業を実演しなければならないことや、加えて、学習指導要領が「公共」に求めている学びというのも、受講生が高校時代に受けてきた公民科系の科目とは様相を異にしていることなどが把握できた。

2. 著書・論文・学会発表等

特になし。

(担当する当該教科教育講義の受講生の状況に関係する複数年分の各種データや資料が得られたところで論考にまとめることを予定している)

3. 主な経費

上記研究を行う上で必要な資料類の入手を主として経費を使わせていただいた。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

特になし。

(本文は 2 ページ以内にまとめること)